

特別支援学校、教員免許まだ7割 障害の専門性が課題に

文部科学省は5月22日、特別支援学校教員の免許保有状況調査の結果を公表した。自分が担当する障害領域の免許を持っているのは4万6,069人で7割にとどまることが分かった。全国の特別支援学校の教員や教育委員会を対象に2014年5月1日時点の状況をまとめた。

障害領域ごとの免許保有状況は、知的障害3万1,805人（75%）、肢体不自由9,513人（74%）、病弱1,955人（73%）、聴覚障害1,850人（48%）、視覚障害946人（35%）だった。

都道府県別では、秋田（91%）、茨城（同）、岩手（89%）の保有率が高く、大阪（55%）、東京（58%）、高知（59%）が低かった。

特別支援学校教員の免許は、2007年度に従来の盲、ろう、養護学校別の免許が一本化され、科目の修得状況により教授可能な障害領域が特定された。ただ、小・中・高校の免許があれば当面の間、教員になれるため、担当児の障害特性などの知識や理解が不足する教員が教えるなどの問題が起きている。

（福祉新聞・第2719号 2015年6月15日）

盲導犬の育成、2014年度は141頭 日本盲人社会福祉施設協議会

日本盲人社会福祉施設協議会はこのほど、国内の盲導犬訓練施設11団体による2014年度の盲導犬育成数が、前年度比3頭増の141頭と発表した。そのうち、新規に盲導犬を持つ人に貸与されたのは46頭、すでに貸与されている盲導犬の代替えとして貸

与されたのは95頭だった。

盲導犬の実働数は2015年3月31日現在984頭で、前年度に比べ26頭減。引退した盲導犬が167頭に上り、年間の育成数（141頭）を上回った。

（福祉新聞・第2718号 2015年6月8日）

第8回脳神経科学福岡セミナー

日 時：2015年9月6日（日）9：30～17：10
会 場：西鉄イン福岡アクロス福岡前2階Aホール会議室（福岡県福岡市中央区天神1-16-1）

プログラム：9：30 受付/10：00 開会の辞（神経科学とリハビリテーションの可能性について）東京工科大学医療保健学部教授運動神経科学研究会発起人・代表 小松泰喜先生/10：30 教育講演「歩行ニューロリハビリテーションの最先端」東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻・教授中澤孝孝先生 司会 小松泰喜先生/12：00 協賛企業からのご案内とランチョンセミナー（タック株式会社）/午後の部 司会：北海道科学大学教授 田中勇治先生 13：30～14：30 セミナー1：「運動制御・学習理論の基礎」東京大学大学院教育学研究科身体教育学講座・教授 野崎大地先生/14：40～15：40 セミナー2：「形態学的脳画像解析から見た運動学習」福岡国際医療福祉学院理学療法学科 玉利 誠先生/15：50～

16：50 セミナー3：「リハビリテーション医学における脳科学の応用」佐賀整肢学園こども発達医療センター 副院長 高杉紳一郎先生/質疑応答/17：10 閉会

運営主催：運動神経科学研究会

協賛・後援：タック株式会社

研究会事務局・セミナー運営：（株）イワミツ

費 用：5,000円（昼食込み）

対 象：理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・看護師・柔道整復師・その他、

*公益社団法人 日本理学療法士協会 専門理学療法士および認定理学療法士、基礎理学療法専門分野、神経理学療法専門分野履修ポイント5申請中。

定 員：90名

申し込み・問い合わせ方法：<http://www.pt-ot-st.net/index.php/seminar/inquiry/758> よりお問い合わせください。